

1 財政見通し（令和3年（2021年）5月作成）について

【提 案】 企画経営部

【結 果】 再審議

【質疑等】

- ・ 1 はじめにのところで、行財政経営アクションプランの説明を記載した方が分かりやすい。
⇒ 確かに記載した方が分かりやすいため、記載内容について検討する。
- ・ 6 地方債の見通しの地方債発行予定について、令和5年度まで急増する理由を記載した方が良い。
⇒ 建物施設とインフラ施設の維持・更新経費については、宝塚市公共施設等総合管理計画をもとに地方債発行予定額を計上しているが、年度によって増減があり、多い年度については財政への影響が大きいことから、令和5年度以降は平準化して見込むこととした。宝塚市公共施設等総合管理計画については今年度更新予定のため、更新されれば、それに合わせて地方債発行予定も修正する予定である。
- ・ 10 行財政経営基盤の強化に向けた取組の成果について、取組成果額を年平均20億円としているが、その根拠や実現可能性等について整理しておく必要がある。前回の財政見通しにおける取組成果額は年間5～6億円程度であったことから、今回の年間20億円はかなりハードルが高いように思う。
⇒ 実際の取組にあたっては市民サービスへの影響等を考慮しながらにはなるが、年間でこれぐらいの成果を出さないと財政が健全にならないという目安を示したものである。
- ・ 職員がもっと理解できるように説明会等を開催した方が良い。まずはしっかり職員に説明し、理解していただいた上で庁内一丸となって取り組む必要がある。
- ・ 市立病院の建て替えに伴う費用については市立病院が負担する分もあるが、現在の経営状況では難しいことが想定されるため、その辺りも見込んだ見通しを立てるべきである。
- ・ 行財政経営アクションプランを早期に策定するとあるが、必ず具体的な策定時期を問われるため、整理しておいた方が良い。
- ・ 取組成果額年間20億円というのは、毎年20億円の改善が必要ということか。
⇒ 毎年新たに20億円の収支改善が必要という訳ではなく、一度20億円改善できればそれが継続すると考えている。
- ・ 取組成果額年間20億円については毎年なのか、10年間なのか、分かりにくい。
⇒ 最初の3年間で取組成果額を年間20億円達成できれば、それが後年度も続くという意味であるが、誤解が生じないような表現に修正する。
- ・ 市立病院の建て替えコストについて、9 行財政経営基盤の強化に向けた取組では20億円の収支改善が必要としている一方で、10 行財政経営基盤の強化に向けた取組の

成果を反映した見通しでは市立病院等の課題を未反映としており、表現に整合がとれていないように感じた。

⇒ 表現について検討する。

- ・ 8 財政見通し数値表の本文中に収支累計額が約135億円との記載があるが、約135億円の収支不足若しくは収支不足累計額約135億円と表現した方が良いのではないのか。

⇒ 修正する。

- ・ 公共施設等整備保全基金、市債管理基金及び新ごみ処理施設建設基金の10年間の積立合計が約43億円であるのに対し、8 財政見通し数値表のT（基金とりくずし）では10年間で約21億円取り崩すこととしているため、実質的な積立額はその差の約22億円と理解していたが、7 基金の見通しのグラフにおいて令和3年度から令和12年度までの増額分が約45億円となっている。この違いはどのようなことか。

⇒ 公共施設等整備保全基金、市債管理基金及び新ごみ処理施設建設基金以外にも都市計画事業基金などがあり、全ての増加要因を記載している訳ではない。8 財政見通し数値表のT（基金とりくずし）には子ども未来基金や都市計画事業基金、新ごみ処理施設建設基金等が含まれている。

- ・ 公共施設等整備保全基金、市債管理基金及び新ごみ処理施設建設基金以外で積み立てできる基金は8 財政見通し数値表のどこに含まれているのか。

⇒ N（積立金）であるが、全ての基金名称を記載している訳ではない。

- ・ 収支不足に対する対策が記載されていない理由は何か。

⇒ シミュレーションをするとこれぐらいの不足額が発生するというのは明らかとなったが、どのような取組を行えば成果がでるのかということは現時点では不明であるため、具体的な対策まで記載できないのが現状である。

- ・ 9 行財政経営基盤の強化に向けた取組の5項目のうち、最も効果が高いであろう「成果重視の事業検証」について、もう少し具体的に記載すれば良いと感じた。

⇒ 表現を強めることは可能であるが、具体的な内容を記載することは難しいと考えている。

- ・ アクションプランについてはどのようなものを作成するつもりか。前回のような数字を示すのか、または取組項目のようなものか、何かイメージは持っているのか。

⇒ 前回のような効果額ありきの内容ではなく、それぞれの方針に基づく推進項目に沿った指標を設定し、どのように達成できるかを示すものをイメージしている。

- ・ 少しでも市民にこの状況を理解していただくために、収支改善額の20億円の規模感や現在どのような市民サービスにお金がかかわっているかを示す必要があるのではないのか。単に収支不足だけでは削減ありきの話になってしまうため、どのような事業にお金を配分しているのかも合わせて公表すべきである。

⇒ 上乘せ横出し等のサービスを受けている市民はそれが普通であると思っているため、どのような事業があるかを示すことは必要であると思う。

- ・ 今後は限られた資源の配分をどのようにするかが重要になってくるため、成果重視の事業検証が必須である。まずは令和4年度の約13億円の収支不足をどのように対応するかを考えなければならない。
- ・ 本当に上乗せ横出しだけで20億円を削減できるとは思えない。短期的には幾分かは削減できるかもしれないが、20億円の効果が発現するまではもう少し時間がかかるのではないかと思う。
- ・ この見通しでいくと、令和4年度の予算編成においては約24億円の収支不足に対して財政調整基金を充当せざるを得ないが、歳入の範囲内で予算を編成するという従来の考え方と異なることとなるが、それで良いのか。
 - ⇒ 本来は財政調整基金に頼った予算編成は好ましくないため、収支改善の取組に尽力する必要がある。
- ・ 本気で収支改善に取り組むのであれば、上乗せ横出しの削減についても提案していかなければならない。
- ・ 市債管理基金の積み立てが無いのは問題である。兵庫県でも財政調整基金は少ないものの、県債管理基金をある程度積み立てている。安定的な行財政経営を目指すのであれば、市債管理基金の積み立ては必要である。
 - ⇒ 団体によって起債の借りが違う。兵庫県は公募債を発行しており、元金の償還が発生せず満期で返済するため、県債管理基金を継続的に積み立てている。本市の場合公募債は発行しないため、積み立てておく必要がない。
- ・ 公共施設の修繕を考えると今後もっと収支不足額が増えるのではないかと思う。ここでは見えていないものが今後出てくることを踏まえると、改善額がもう少し増えると思った上で取り組まなければならない。
 - ⇒ 財政見通しは毎年作成するため、その都度新しい要素が加われば、収支不足額も変動する。
- ・ 従前はアクションプランの中で具体的な金額や取組が示されていたため分かりやすかったが、今回はそのあたりが見えていない。早期にアクションプランの作成や上乗せ横出しを中心とした事業の見直しに全庁をあげて取り組まなければならない。
- ・ 上乗せ横出し等の事業を市民に公表する際には、全て削減対象であると誤解されないような表現にしておかなければならない。今のままでは10年間で約135億円不足することは分かったため、早急に対策を考える必要がある。
 - ⇒ 上乗せ横出しだけではなく、全事務事業の中で成果が無いものは早急に見直す必要があると考えている。
- ・ 令和5年度までに収支改善に取り組むのであれば、遅くとも令和4年度予算編成時までにアクションプランを作成するぐらいの気持ちで取り組む必要がある。
 - ⇒ 庁内で協議しながら可能な限り早期に作成できるように取り組んでいく。